

早明浦ダムだより



早明浦ダム
ホームページ

↑スマホはこちらから

令和2年7月豪雨のときの
早明浦ダムの対応は？

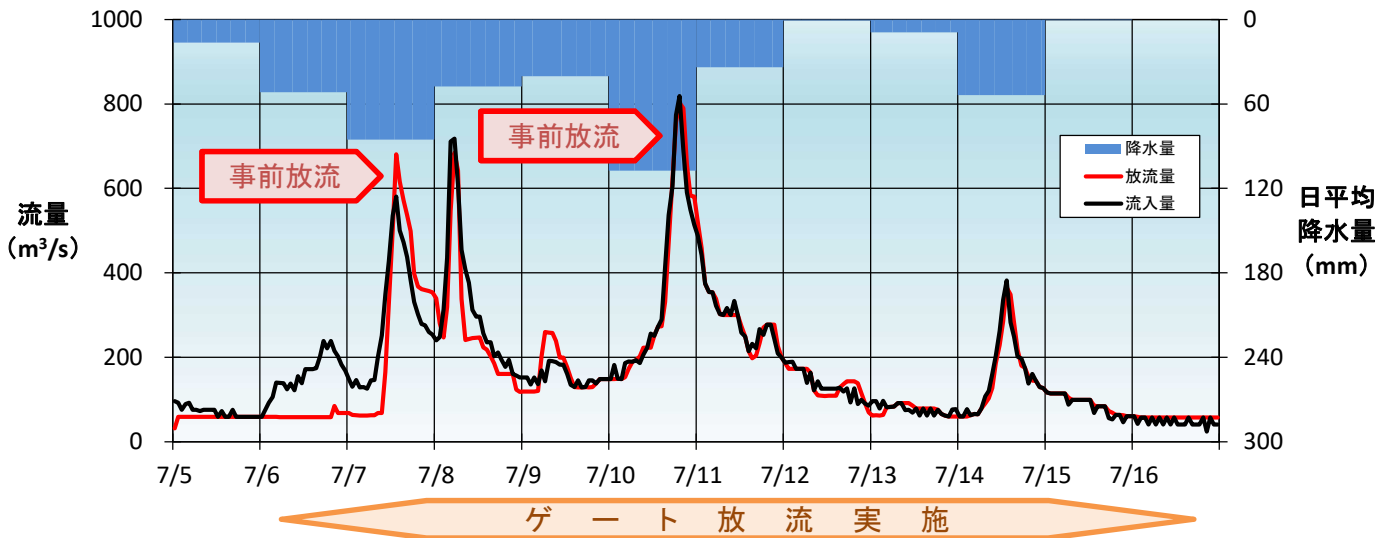
■どれくらい雨が降ったの？

7月上旬から中旬にかけて、九州や中部地方など日本各地で豪雨災害が発生しました。早明浦ダム上流域では7月5日から15日までの11日間で、446ミリの降雨を記録しました。これは7月1ヶ月間の例年の降水量の104%にあたります。この降雨によりダムへの流入量が増加し、貯水位が上昇したため、早明浦ダムでは6日19時から16日1時までのおよそ10日間ゲート放流を行いました。

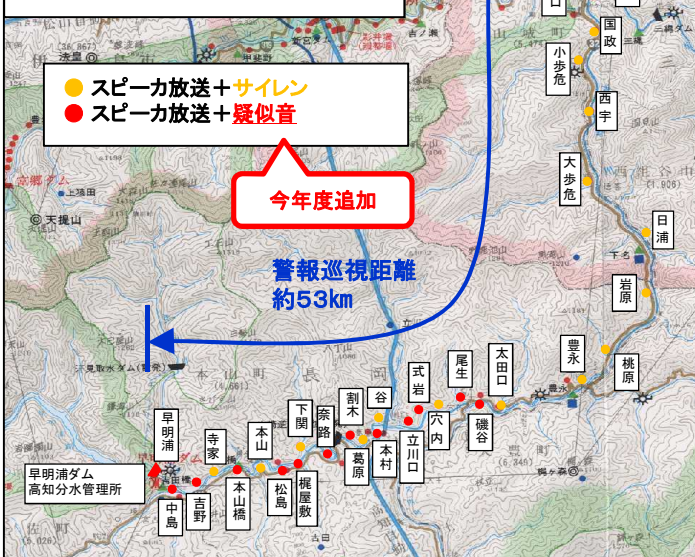
■事前放流を実施しました！

早明浦ダムでは、関係機関の皆さまのご協力のもと、事前放流を実施するための準備を進めてきました。今回の出水では7月7日と10日の出水において、線状降水帯などによる豪雨に備え、事前にダムの貯水位を下げるための事前放流を実施しました。

早明浦ダムの流入量・放流量・降水量



早明浦ダム放流警報所



今後の台風シーズンに向け、ダム下流河川における洪水被害の防止・軽減のため、より一層安全・確実なダム管理を行ってまいります。

■新しい警報音を追加しました！

早明浦ダムでは、ゲート放流等を実施するときは、警報車による巡視のほか、ダム下流に設置した30箇所警報所から、スピーカー放送とサイレンにてお知らせしております。

今年度からは、より伝わりやすい警報とするため、左図の赤色の警報所ではこれまでの「スピーカー放送に追加して「サイレンの疑似音」を鳴らすこととしました。

聞き慣れない音と感ずるかもしれませんが、警報が聞こえたら、川から離れ、安全な場所に移動して下さい。

☆☆ 再生事業からのお知らせ ☆☆

早明浦ダム再生事業は環境に配慮して事業を進めています

環境検討委員会を開催しました

早明浦ダム再生事業では、工事中や工事完成後の環境に配慮するため、騒音、振動、動植物などを調べる「環境調査」を実施してきました。



早明浦ダム再生事業環境検討委員会(7月22日) 開催状況

この調査結果を用いて、工事や工事完成後のダム管理が環境に与える影響を予測・評価し、必要に応じて保全対策等の検討を行うため、学識経験者や専門家で構成される「早明浦ダム再生事業環境検討委員会」を7月22日に高知市内で開催しました。

委員会では、早明浦ダム再生事業における環境に関する様々な課題について、指導や助言をいただきました。

今後、この委員会での指導・助言を踏まえた検討を行い、事業者として可能な範囲で環境に配慮しながら事業を進めていきます。

～ 選択取水設備の運用について ～

★★★★ ダム知識 Information ★★★★★

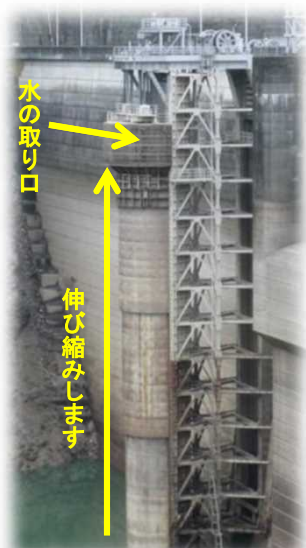
せんたくしゅすいせつび
■ 選択取水設備とは？

早明浦ダムの放流設備のひとつに「選択取水設備」があります。この設備は文字通り、水を取る深さを選択して放流できるものです。今月号では、選択取水設備の役割についてご紹介します。

● 水を取る深さを選択するのはなぜ？

ダムから下流へ放流している水は、その川に生息している生き物(鮎など)や田畑にできるだけ影響を与えないようにすることが大切です。しかし、ダム貯水池の水温は深さによって大きく異なり、特に夏場においては水面の方に温かい水が、底の方に冷たい水が貯まってしまいます。

また、大雨などで一定の深さだけが濁ってしまうこともあります。そのため、早明浦ダムでは、貯水池の水温・濁度を常時監視し、下流にできるだけ影響を与えない水を選んで放流することができます。「選択取水設備」を設置しています。この設備の運用は、地域の皆様のご理解をいただきながら行っております。引き続き、より良い運用に取り組んでまいりますので、よろしくお願ひします。



※通常は水の中にあります

- 選択取水設備 諸元
- ①形式: 半円形多段式
ローラゲート
 - ②最大取水量:
毎秒65立方メートル
 - ③取水範囲:
標高331.00m
～289.00m

